

# 緑内障の サージカル的 治療最前線

—MIGSからImplantまで—

日時 | 2017年**10月13**日 (金) 7:50～8:50  
会場 | 第**3**会場 (東京国際フォーラム ホールB7(2))

座長



**相原 一** 先生 (東京大)

緑内障の手術治療は眼圧下降を目的とし、房水流出路を再建あるいは新規に確保、もしくは房水産生を抑制する方法が取られる。長年この手術概念は変わらないが、近年は手術の選択肢も増え、特に主経路の抵抗のうちシュレム管までを開放する手術として侵襲が少ない眼内法が多用され、難治症例に対してもチューブ付きインプラントが利用でき、患者に還元できるデバイスが導入されてきているのが現状である。本セミナーでは主経路へのMIGSデバイスKAHOOK dual bladeの開発者 Dr. Kahookにご登壇頂く機会を得た。また優れた臨床家のお二人にKAHOOK dual bladeと Ahmed Glaucoma Valveによる実体験に基づいた眼圧下降治療戦略をお話し頂く。皆様の緑内障手術治療に役立つ情報が提供できるものと期待している。

演者1



**A novel approach to ab interno glaucoma surgery**

**Malik Kahook** 先生

(Department of Ophthalmology, University of Colorado Anschutz Medical Campus)

演者2



**難治症例に対するKAHOOK dual bladeを用いた手術戦略**

**永原 幸** 先生 (東海大・八王子)

演者3



**まだ治せる! あきらめないで使ってみようアームド緑内障バルブ**

**北 善幸** 先生 (杏林大)